2024 年 6 月 19 日（水）

「アンネのバラ」がきれいに咲きました!!

アンネ・フランク

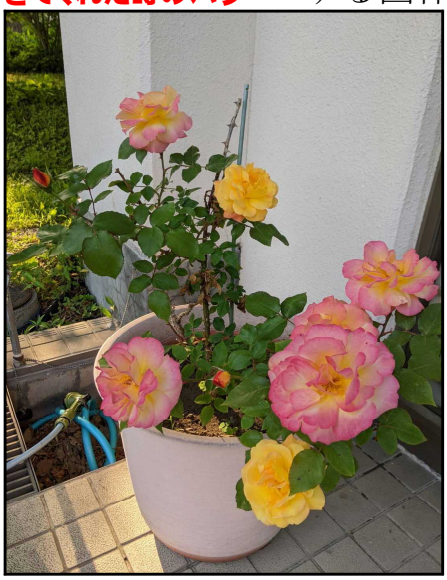
遺愛に「アンネのバラ」があるのをご存じですか？
「アンネのバラ」は、『アンネの日記』の**アンネ・フランクが、**自然を愛し、**とりわけバラが好きだった**ので、戦後アンネの父オットーとベルギーの育種家ヒッポリテ・デルフォルヘが協力して「形見」として捧げたバラです。

アンネは生前、「もし、神さまが私を長生きさせてくださるのなら、私は社会に出て、人類のために働きたいのです。」という言葉を遺していました。日本へは、1972 年と 1976 年に、父のオットーから寄贈された花が広まり、愛と平和のシンボルとなっています。

「アンネのバラ」はつぼみの時は深紅、花が開き始めると、オレンジ、イエロー、そして淡いピンクと変化していき、清楚さと気品、そして明るさというアンネの性格や人柄を思わせ、またその色彩の変化が神秘的と感じられるほどに、鮮やかなバラです。これは、もし生き延びる事ができたなら、多くの可能性を秘めていたアンネを表現しています。この 50 年の間に日本各地に広がっていき、今では 1 万本以上になりました。（出典 Wikipedia より）

井本先生がもってきてくれた時のバラ

1994 年 12 月、「アンネのバラ」は近隣の聖イエス会マリヤ教会から茨城キリスト教学園に寄贈され、翌年 1995 年に初めて開花しました。そして、2000 年より茨城県内の幼稚園･保育園、小中高の学校、養護施設や老人ホームなどに、株分けした苗木を配布しています。学園では、平和を願い命の尊さを学ぶ活動の一つとして、「アンネのバラ」を接ぎ木して、希望する団体にも苗木をお贈りしているそうです。



今年咲いたアンネのバラ

2021 年 6 月に井本教頭先生（当時、茨城キリスト教学園中高教師）が、初めて遺愛に訪れたときに、その 1 本をプレゼントしてくれました。

それ以来、英語科の生徒の皆さんと相川先生が大切に育ててくれていて、4 年目の今年、見事に開花しています。相川先生のコメント… 2020 年、コロナの影響で客船ボランティアができなかったため当時の英語科 3 年生のアイディアで始めた「遺愛ファーム」。校内で育てた野菜を販売し売り上げをクリスマス献金の一部として捧げたり、市内の子ども食堂に食材として提供したりと活動してきました。そんな野菜畑に「これも大事に育てて欲しい」と校長先生からバラの鉢植えが届いたのが 2021 年。育て方や世話の仕方、何ひとつわからないままジャガイモやキュウリと一緒に植えるという荒業の末、一輪の花も咲かなかったバラが、4 年目の今年にこんなに花を咲かせるとは驚きの一言です。今年の K3H 有志が愛情をこめて水や肥料をあげてくれたおかげだと思います。いつかはホワイトハウスの前をバラでいっぱいにできればと思います。…

実は、遺愛 1 年目の「アンネのバラ」は、ひそかに数学の向井先生が「かすみ園」の社長さんと相談しながら、愛（め）で育んでくれていました。